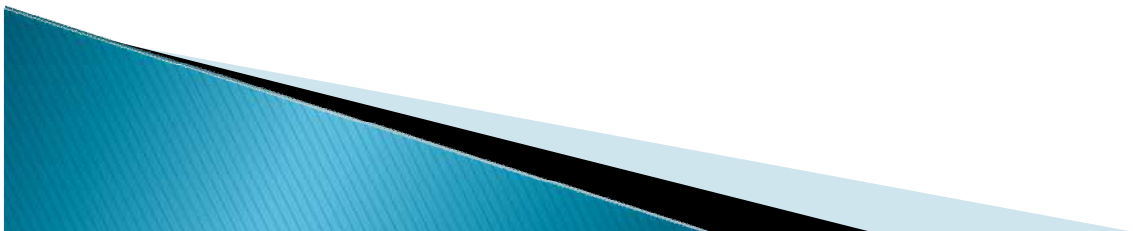


ITの新潮流について

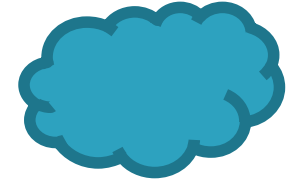
慶應義塾大学
國領二郎

基本認識(1)

- **圧倒的な情報の集積と情報資産活用が勝負を左右する時代**
 - 第一期:ハードウェアの時代(～80年代)、第二期ソフトウェアの時代(～00年代)、第三期:情報資産の時代(10年～)
 - ✓ クラウドコンピュータと、クライアント(ハード/ソフト)が連動するビジネスモデルの世界展開。世界をつなぐオープンなネットワークが前提



クラウドコンピューティング



- ユーザがアプリケーションやデータを持たず、ネットワークを介して事業者が提供。所有から利用へ
- サービス・イメージ的には昔の、データセンター型に似ている。ただし、基盤は無数の小型コンピュータのネットワーク。無数のコンピュータが連携して大きな仕事を分担する 分散電源制御の思想へ
- ユーザ目線では「コンピューティングの価格革命」ととらえるべき。単に安いだけでなく、価格構造が違う。無料で使用できるサービスが大量に存在。メンテナンスコストなども



ASP・SaaSと経営モデル

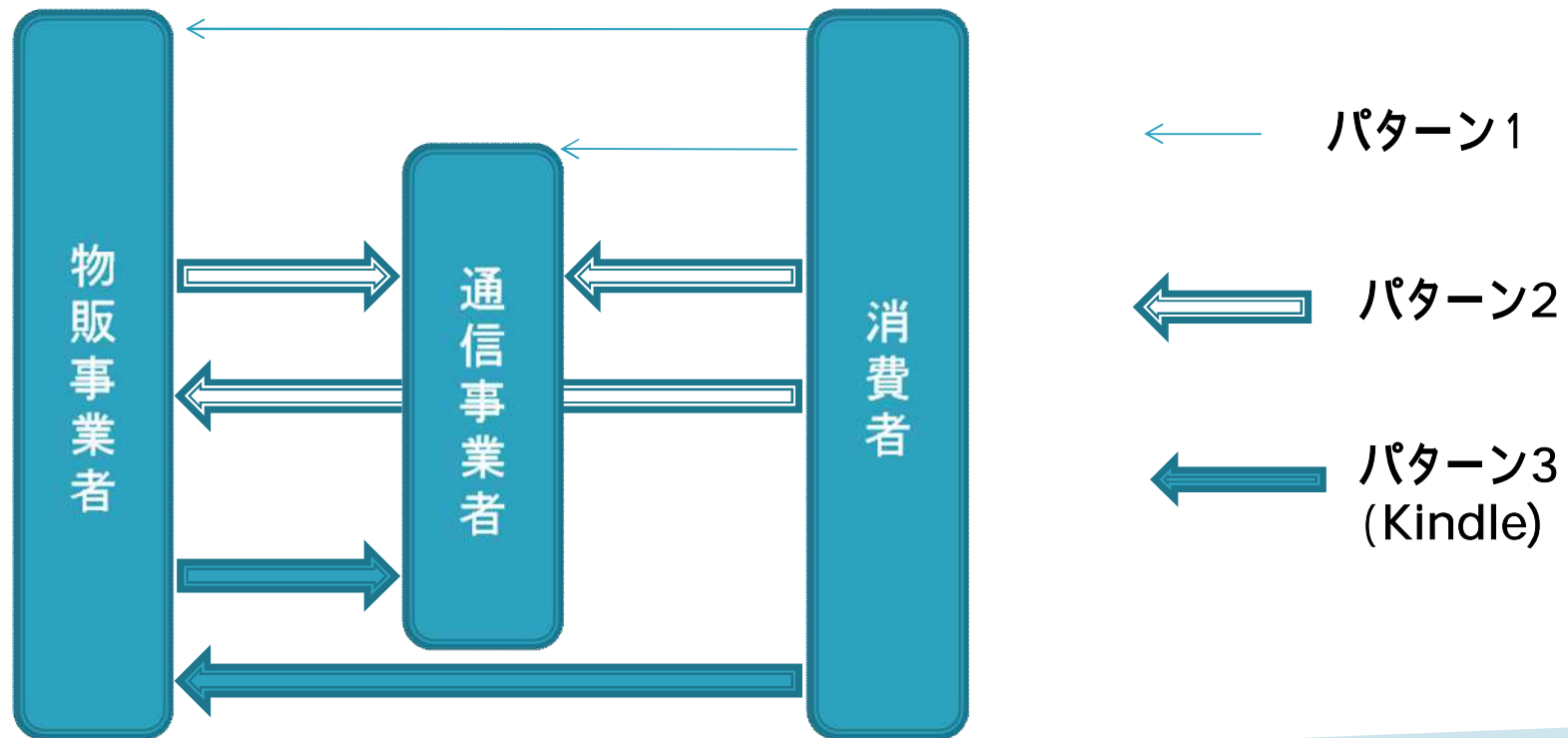
ASP・SaaS前

- ▶ ハードウェア・プログラム「所有」の時代
- ▶ 大企業の「競争優位」に大きな差が生まれた

ASP・SaaS時代

- ▶ 情報活用の時代
- ▶ 中小企業に差が生まれる時代
 - 小規模事業所への導入が進む
 - 業務効率化に加え
 - 販売への適用が大きなインパクト持つ
- ▶ 人材が鍵
 - 従来のようなソフトウェア開発要員は従来ほどいない
 - ITを会社に定着させ、有効活用できる人材の大量養成が必要

Kindleに見る ビジネスモデルのイノベーション



パターン1: 最終消費者が通信料・物品費を支払うモデル。

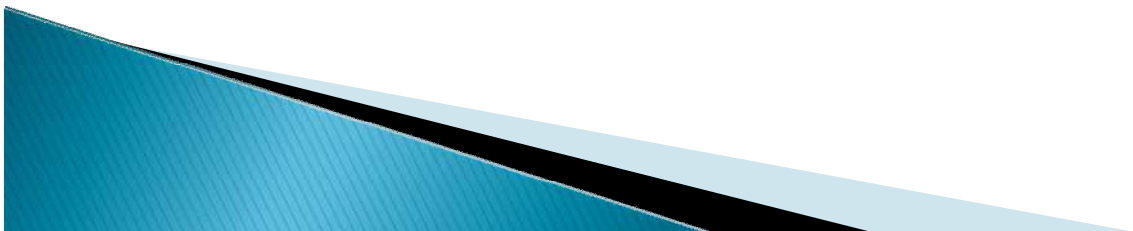
パターン2: 双方が通信料を負担し、物品費は消費者が支払うモデル。

パターン3: 最終消費者は物品費のみを支払うモデル。

基本認識(2)

- 末端からの情報発信

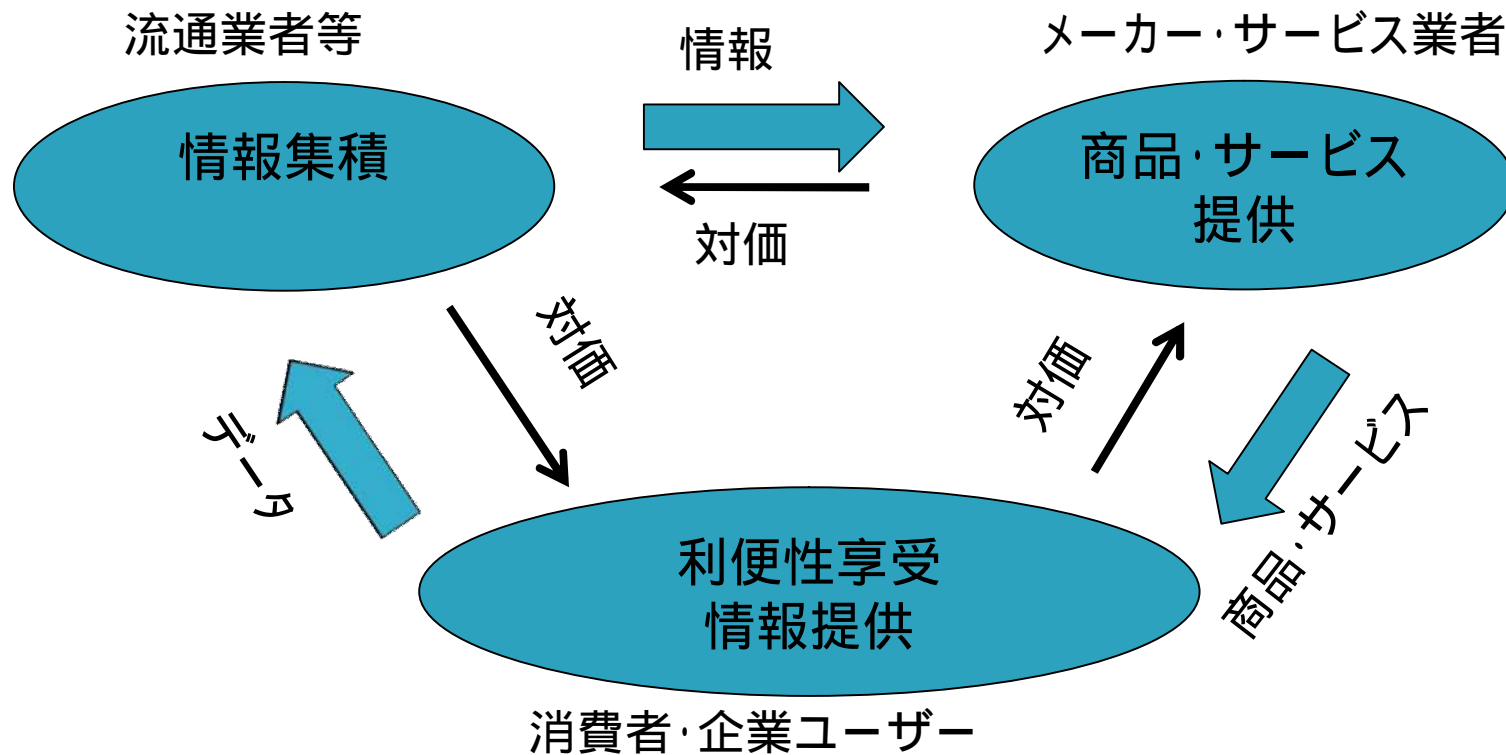
- ✓ ICカード、監視カメラ、RFIDなどのセンサーがネットワークされる
 - ✓ コンピュータだけでなくあらゆるモノがネットワーク化される
- ユーザが発信する情報が付加価値の源泉



POU情報の活用

- ▶ POS(point of sales:販売時点)情報システムは、サプライチェーンの構造に大変革をもたらした。しかし、これはまだ「販売者」情報
- ▶ いま、われわれはPOU(point of use:使用時点)情報を手に入れつつある。
- ▶ サプライチェーンとデマンドチェーンの統合。末端から発信される膨大な情報を的確に分析し、真に顧客の求める商品を、欲しい時に欲しい場所に届ける。無駄なく、消費者ニーズに応えるエコで、創造性あふれるビジネス展開

消費者が情報価値を生むネットワーク



消費者が生む情報価値に対して、企業がポイントなどで還元

日立様資料を元に國領改変

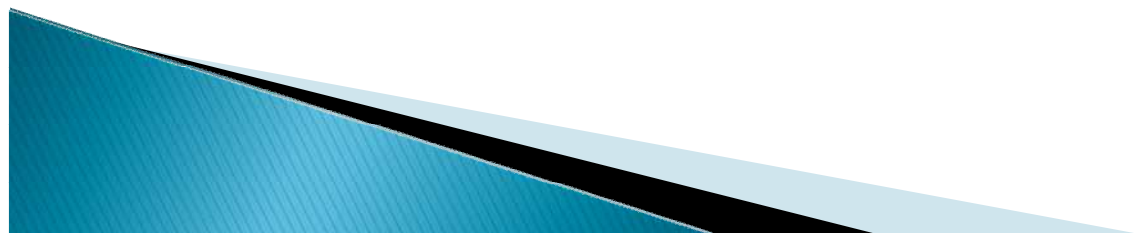
情報のビジネスモデル化

- ✓ ターゲットマーケティングモデルによりビジネスモデルが見えるようになってきた
- ✓ 具体的な収益モデルの登場

例：検索連動型広告

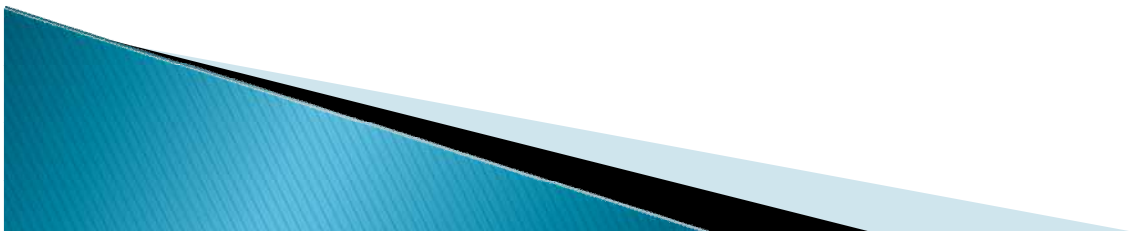
広告価値 = 視聴数 × 購買誘発率

情報を資産と考え、活用する時代



基本認識(3)

- **コンバージェンス(融合)の時代**
 - ✓ **ワイヤレス + ブロードバンド**: 無線帯域の効率活用をするためにも、固定とワイヤレスの融合が進む
 - ✓ **通信 + 放送垣根消滅**: ワイヤレス・ブロードバンド化の本格化
 - ✓ **発信者 + 受信者**: 消費者が携帯端末でリアルタイム動画を世界に発信できる時代



インフラの多重活用

- ▶ これまでバラバラにインフラを持っていたアプリがソフト化で同一インフラを共用できるように 徹底的な資産高度活用
- ▶ 放送・通信融合、公設民営方式、アウトソースなどもこの文脈の中で考える

